『奥三河の昔話伝承』目次

まえがき……三
奥三河の昔話……一三
一　はじめに……一五
二　調査地域の概況……一七
三　調査記録……二一
(1)　調査方法……二一
(2)　話者と採集話数……二三
(3)　昔話の呼称と形式……二四
(4)　伝承事情……二五
四　資料の特質……二七
(1)　動物昔話……二七
(2)　本格昔話……二九
(3)　笑話……三五

昔話資料……四五
凡　例……四七

動物昔話

1 古屋の漏り——騒動型……五〇
2 古屋の漏り——逃走型……五四
3 十二支の由来(1)……五六
4 十二支の由来(2)……五八
5 かちかち山……五九
6 猿蟹合戦……六八
7 尻尾の釣り……七〇
8 鶴と亀……七一
9 かせかけ蚯蚓……七二
10 むかでの医者迎え……七三
11 京の蛙大阪の蛙……七三
12 雀孝行……七四
13 水乞い鳥……七五
14 ふくろう博徒……七六
15 時鳥と兄弟……七七
16 うぐいすの鳴き声……七八
17 うばたらしの鳴き声……七九

本格昔話

18 蛇婿入り——針糸型(1)……八二
19 蛇婿入り——針糸型(2)……八三
20 蛇婿入り——水乞い・嫁入り型……八四
21 蛇婿入り——姥皮型……八六
22 姥捨て山——難題型……八九
23 姥捨て山——枝折り型……九二
24 姥捨て山——枝折り・難題型……九二
25 継子いじめ——米埋め糠埋め……九四

26 継子いじめ——風呂の水汲み……九五
27 継子いじめ——木の実拾い……九六
28 鳥呑み爺——隣の爺型……九六
29 鳥呑み爺——成功型……一〇一
30 竹取り爺……一〇三
31 尻ひり爺……一〇三
32 花咲か爺……一〇四
33 瘤取り爺……一一三
34 舌切り雀……一一四
35 桃太郎——鬼退治型……一一五
36 浦島太郎……一二一
37 食わず女房……一二三
38 天人女房……一二四
39 蛇女房……一二七
40 呼ばりくらべ……一二八
41 猿婿入り——手伝い・嫁入り型……一二九
42 龍宮入り……一三〇
43 若返り水……一三一
44 大岡裁き……一三二
45 笠地蔵……一三三
46 三枚の御札……一三四
47 牛方山姥……一三八
48 化けくらべ(1)……一三九
49 化けくらべ(2)……一四〇
50 山姥と糸車……一四三
51 狸退治……一四四
52 魚屋と妖怪……一四六
53 猫に化かされた話……一四七
54 狛犬の守り……一五〇
55 天狗の話(1)……一五一
56 天狗の話(2)……一五六

笑　話

57 和尚と小僧——饅頭は仏様……一五八

58 和尚と小僧—和尚お代わり……一六〇
59 和尚と小僧—馬の落とし物……一六一
60 和尚と小僧—焼き餅和尚……一六三
61 和尚と小僧—鮎は剃刀……一六四
62 和尚と小僧—はし渡り……一六五
63 和尚と小僧—飴は毒……一六七
64 和尚と小僧—小僧改名……一六八
65 和尚と小僧—卵は団子……一六九
66 和尚と小僧—十五夜の月……一七〇
67 狐に化かされた話—馬の尻のぞき……一七一
68 狐に化かされた話—馬の糞団子……一七二
69 狐に化かされた話—風呂は肥だめ……一七四
70 狐に化かされた話—髪剃狐……一七五
71 狐に化かされた話—狐の嫁入り……一七六
72 屁ひり嫁—姑被害型(1)……一七八
73 屁ひり嫁—姑被害型(2)……一八〇
74 屁ひり嫁—離縁型……一八一
75 団子婿……一八二
76 糸合図……一八三
77 馬の尻に札……一八四
78 愚か婿—沢庵垢磨……一八六
79 愚か婿—婿の挨拶(1)……一八七
80 愚か婿—婿の挨拶(2)……一八八
81 旅学問……一八八
82 平林……一九〇
83 鼠経……一九二
84 閻魔の失敗……一九四
85 姑の毒殺……一九五
86 けちくらべ……一九七
87 長い名の子……一九八
88 西行と歌(1)……一九九
89 西行と歌(2)……一九九
90 聞き違い—火事は遠い……二〇〇
91 聞き違い—鉄砲の音……二〇一

92 勘違い—けやき……二〇一
93 草刈ろう……二〇二
94 星を落とす……二〇三
95 豆腐とこんにゃく……二〇三
96 まのよい猟師(1)……二〇四
97 まのよい猟師(2)……二〇五
98 ほら話(1)……二〇六
99 ほら話(2)……二〇六
100 嫁がほしい話……二〇七
101 泥棒の話……二〇八
102 樽に閉じ込められた話……二〇九
103 飛ぶように速い話……二一〇
104 長くて怖い話……二一一
105 長い話—天からふんどし(1)……二一一
106 長い話—天からふんどし(2)……二一一
107 果てなし話—蟻の米運び……二一二
108 果てなし話—鼠の米運び……二一四
109 しまい話……二一五
話型別・話者一覧……二一六
あとがき……二三九

1　古屋の漏り——騒動型（もろぞ恐ろしや）

（設楽町東納庫　沢田久夫）

ある村に、ひとり暮らしのお婆さんがいたというんですよ。そのお婆さんの家には立派な駒がいたという。それが非常に立派な駒だから博労がほしくてほしくてたまらない。だからお婆さんにその駒を「売れ」って言うんですが、そのお婆さんは自分の子どものようにふだんかわいがっているからね、「いくら銭を出しても売らん」と。この上は、もうどうしてもしかたがないからねえ、あの駒を自分のものにするにはね、盗んでしまうよりかしょうがないという判断をしたわけです。ほれで博労はね、ある日ね、そーっとその日が暮れてから、婆さんの家の表の方へね、忍んで行ってね、お婆さんが寝静まるのを待っとったわけです。そしたらその時にねえ、山の方にいたのがね、おおかめ（狼）ですよ。そのおおかめがね、やっぱり馬がね、肥えて立派だから、あれをひとつ食べてやれと思ってね、ねらっとったわけですよ。それだからその日ね、たまたまね、そのおおかめも山から降りて来てね、裏口へ忍び寄ってね、そうしてそのお婆さんの寝静まるのをね、待っとったわけですよ。

そうやって、だんだんと夜が更けかけてた時になってから、一天にわかにかき曇って、雨が

ザァーッと降ってきたわけですよ。お婆さんの家はね、古びた家だったからね、どうも屋根が大部傷んでおって、そこからポトポトポトポト雨漏りがしとったですよ。さあお婆さん大変だ。ほう、こらまあしょんない（しかたがない）ってわけで、鉢を持っていって、第一の雨漏りのところにあてがって、そのうちにひどくなって第二番が出るでしょ。これはというわけで、いろんなものを持っていってね、お婆さんは大忙しになったわけだ。その時にねえ、お婆さんが口でこう、ぶつくさしゃべってるんです。何を言っているのかなと思って聞いてみるとねえ、それはね、「虎おおかめより、もろぞ恐ろしや」と言いながらね、あっちへ持っていったりあてがったりしとるわけです。それを聞いたねえ、おおかめが驚けただねえ。「はあ、これはどういうやつだな、そのもろぞってやつは。俺はこの世界中で一番怖いのは俺だと思っとった。ところが、その虎おおかめよりも、まんだ恐がい（恐ろしい）もろぞって怪物がいるらしい。こりゃあ油断がならんぞ」と思っておったと。

それでそのうちにねえ、雨がやんだわけですね。それだから博労はこの意気にね、ひとつ馬を盗もうと思っとった。一方の方のおおかめはね、こんなところにうろうろしとってね、とっ捕まったりをしたらね、馬を食べるどころじゃない。手前がもろぞに食われちゃうから、これは今のうちに逃げた方が勝ちだっちゅうわけでね。パーッと逃げ出いて、その納屋の前を通ってね、食べるどころじゃない逃げてっちゃったわけだ。さあ、それを表の方で、すきをうかが